

I 調査の概要

1 調査方法

(1) 調査対象者及び抽出方法

広島市内に居住する 18 歳以上の男女 3,000 人を対象に、男女別・年齢階層別・区別の人口割合に応じて無作為抽出した。

(2) 調査時期

平成 26 年 9 月 26 日（金）～同年 11 月 30 日（日）

2 有効回収数

802 票（回収率 26.7%）

3 属性

(1) 性別

男性 24.2% 女性 38.3% 無回答 37.5%

(2) 年齢階層別

年齢階層は下表のとおりである。

	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代 以上	無回答
人数	10 人	56 人	118 人	148 人	120 人	182 人	158 人	10 人
比率	1.2%	7.0%	14.7%	18.5%	15.0%	22.7%	19.7%	1.2%

II 調査結果

1 よく利用する施設について（3 つまで複数回答可）

(1) 有効回答数 1,552 件

(2) 傾向

よく利用する施設で最も回答が多かったのは、公民館の 170 件であった。また、利用頻度（年間利用回数）の平均は 18.8 回/年であった。上位 5 位までの結果は下表のとおりである。

順位	施設名	回答数	利用頻度 (年間利用回数) [平均]
1	公民館	170 件	18.8 回
2	区図書館	149 件	16.0 回
3	区民文化センター	107 件	10.9 回
4	スポーツセンター	103 件	20.7 回
5	安佐動物公園	100 件	3.1 回

2 「特に重要である」又は「必要性が薄れている」と思う機能を備えた施設について
(3つまで複数回答可)

(1) 有効回答数

ア 特に重要であると思う機能を備えた施設 1,741 件

イ 必要性が薄れていると思う機能を備えた施設 1,163 件

(2) 傾向(類型別)

「特に重要である」と思う機能は「博物館・美術館・資料館」の回答が最も多く、19.6%であった。また、「必要性が薄れている」と思う機能は「観光・温泉施設」の回答が最も多く、15.7%であった。

それぞれの回答の上位5位までの結果は下表のとおりである。

ア 特に重要であると思う機能を備えた施設

順位	類型	回答数	比率
1	博物館・美術館・資料館	341 件	19.6%
2	図書館等	202 件	11.6%
3	動物園・植物園等	189 件	10.9%
4	広域公園・運動公園・野球場等	173 件	9.9%
5	文化センター・ホール・展示施設	152 件	8.7%

イ 必要性が薄れていると思う機能を備えた施設

順位	類型	回答数	比率
1	観光・温泉施設	183 件	15.7%
2	文化センター・ホール・展示施設	154 件	13.2%
3	図書館等	131 件	11.3%
4	博物館・美術館・資料館	117 件	10.1%
5	広域公園・運動公園・野球場等	102 件	8.8%

3 自由意見

(1) 有効回答数

502 人

(2) 傾向

いただいた自由意見（617 件）を以下の 8 つに分類したところ、施設の数や規模に関する意見が最も多く（252 件）、そのうち、廃止、統合、複合化を進めるべきという意見が多かった（186 件）。

<自由意見の分類>

- (1) 施設の統廃合や増設など、施設の数や規模に関する意見（252 件）
 - ・廃止、統合、複合化（186 件）
 - ・現状維持（32 件）
 - ・施設増又は小規模化（34 件）
- (2) 民営化や職員削減など、施設の運営に関する意見（85 件）
 - ・民営化（57 件）
 - ・ボランティア等の活用（8 件）
 - ・職員数削減（20 件）
- (3) P R や設備の改良など、施設の利用促進に関する意見（55 件）
 - ・P R の強化（26 件）
 - ・設備を改良（18 件）
 - ・サービスの見直し等（11 件）
- (4) 施設の用途変更など、施設の活用に関する意見（46 件）
 - ・用途変更（16 件）
 - ・多目的、多世代で使用する施設（30 件）
- (5) 使用料の増額や土地・建物の売却など、施設に係る財源確保に関する意見（41 件）
 - ・使用料増額（29 件）
 - ・土地、建物の売却等（12 件）
- (6) 交通利便性や配置バランスなど、施設の配置に関する意見（15 件）
 - ・交通利便性に配慮（11 件）
 - ・配置バランスに配慮（4 件）
- (7) 耐震性の向上や長寿命化など、建物の維持強化に関する意見（14 件）
 - ・耐震性の向上（10 件）
 - ・長寿命化（4 件）
- (8) その他の意見（109 件）

